

当たりまえのことが、 当たり前前にできる学校であるために！

朝起きて歯を磨く、食事の後に歯を磨く。なぜ人は、このような習慣が身に付いたのでしょうか？自分で歯を磨くことのできなかつた幼い頃、母親に手を取って磨いてもらった記憶のある人もいることと思います。そして、自分で磨けるようになって、最初は、周りの大人から「磨きなさい」と言われて嫌々磨いていたのが、いつの間にか言われなくても自分から磨くようになっていきます。

それは、「磨きなさい」と言われたいようにしたいから、虫歯になって痛い思いをしたくないから・・・というような理由からだけではないでしょうか？

本当に自分から進んで歯を磨く習慣のある人は、そのような外因的な理由からではなく、歯を磨くという習慣を積み重ねることによって、歯を磨いた後の口の中の爽快感を知っているからではないでしょうか。こんな内面的な動機から習慣化していることが、本当に習慣として身に付いたということなのです。つまり、基本的な生活習慣というものは、外因的な理由からではなく、内面的な「心」を伴ってはじめて本当に習慣として身に付けることができるものなのです。

温かみのある挨拶やしつかりとした礼を交わし合う快さ、時間に遅れずに登校する爽やかさ、清潔感のある服装をすることの心地よさ、その姿、形だけを求めるのではなく、その行為の内側にある「心」に関連して指導することが、生活習慣を確立していく上でとても大切なことだと思います。

各ご家庭でも、姿、形に伴って、内面的な「心」も併せて育み、よい生活習慣の中でそれらが身につけていけるようご支援、ご指導をお願いいたします。



児童総会での意見発表 4年太一くん

「三匹の子ぶた」ぶーふーうーの「うー」はいませんか？

不朽の名作童話、「三びきの子ぶた」に登場する3びきの主人公の名前が「ぶー」「ふー」「うー」です。長男のぶーは「ぶつぶつ屋」です。次男のふーは「くたびれ屋」でしょうか。三男のうーは「がんばり屋」となっています。

ぶーはいつも文句を言っているタイプの児童、ふーはちょっとしたことでフーフーと息を切らせるタイプの児童。ではうーはというと？心の中では苦しいと感じているのですが、それが外に現れない、内心では、辛い思いをしながらも、まじめな努力家であるために、必死でがんばるタイプ、それがうーなのです。

ぶーとふーはともに、自分から不満を訴えたり泣き言を言ったりするので、今どんな状態であるのかを親や教師は把握しやすいのです。そして、この二匹のタイプは、ブーブー、フーフーと自己主張するので、しっかりと不満や悩みを聞いてあげ、しっかりとした助言を与えれば、また元気に進み始めるはずです。

繊細な配慮が必要なのは、うータイプの児童であると思います。うーに分けられる児童たちは、能力や行動特性に違いはありますが、性格的には似たような面があります。つまり「まじめながんばり屋」ということなのです。能力に恵まれ周囲の期待に応えようと過度に頑張る児童もいれば、逆に劣等感をもち、人に遅れまいと必死に努力を続ける児童もいるのです。ぜひ、こんな、まじめながんばり屋の児童の言動には細心の注意を払ってほしいと思います。お子さんはどのタイプでしょうか？



3年生の授業の様子

児童総会が行われました。《宝いっばいの宝小を目ざして！》

5月8日(金)2～4校時に3年生以上の児童が参加して、平成27年度の児童会のテーマ、目標、活動方針や各委員会の取り組み内容等を決める第1回目の児童総会が開催されました。ここでの決定により、今年度の児童会の進むべき方向が決定し、目標に向かって動き出しました。

今年度は「**元気な仲間 元気なあいさつ みんなで行こう宝島**」というテーマを掲げました。

このテーマ設定の理由は、「全校の一人一人が元気に生活できる宝小にしていきたい。」という執行部の願いが込められています。特に、執行部の子どもたちは、宝小という「宝がいっぱいかくれている宝島」で全校が楽しく生活するためには、全員が一つの目標に向かって努力することが必要だと考えました。そして、まず最初の目標に、「元気な挨拶ができるようになる」ということを掲げました。目標を一つずつ達成して、宝をいっぱい探して、目標とする宝島を作っていきます。

この児童総会のはじめにこんな話をしました。

○あなたは「(株)宝島」という会社の社長さんです。しかし、こんな人が会社の中にいたら社長さんのあなたはどうしますか？

- ・お客さんがきても挨拶しません。たまにしても、怒ったような顔をしています。
- ・仕事をちよくちよく、さぼります。
- ・何がいいのか、どんな風にしたいのか、自分の考えを持っていません。
- ・会社が儲かるように、いい商品を作る努力をしません。
- ・友だちと協力しません。
- ・人の話が聞けません。聞いても実行しません。・・・

すると、子どもたちからは、「あいさつをするように注意する」とか、「みんなで、どうすればよくなるか考える」というような声が聞かれました。

また、学校は何のためなのでしょう？とも問いかけました。

学校は社会で必要とされる大人になるために、社会でたくましく生きていくために大切なことを学ぶためにあります。宝小学校は123名の児童の皆さんが生活しています。その中には、「優しい人 我慢強い人 地道に努力する人 あきらめやすい人 リーダーシップを発揮できる人 話好きで一緒にいると楽しい人 無口だけれど困ったときには助けてくれる人 黙って手伝ってくれる人」等々いろいろな人がいます。こんな、いろいろな性格や行動の違う人がいるから、学校は楽しいんだと思います。しかし、学校が勉強する環境としてうまく機能するためには、楽しいだけではダメなのです。みんなが守っていかなければ、努力しなければならぬ最低の条件があります。その条件とは、今日の児童総会で決まる挨拶や学習のルールなどの基本的な生活・学習の習慣や各委員会の仕事です。

皆さんが大人になって、社会に出たとき、その社会に対応できるように、仕事に就いたときに、その仕事ができるように、そのための学習を学校や学級という小さな集団を使って学んでいるのです。そこで、人として基本的なことができるように必要なことがらを勉強し、人と力を合わせていろいろなことだできるように、児童会という組織での活動を通して学習をしているのです。ですから、全校のみんなが安心して快適に学習や生活ができるように考えていかなければならないのです。

大切なのは、これからです。今、この宝小で学んでいる皆さんが生活しやすい学校を作ることです。その結果として、この学校がみんなの目指す宝島になっていくのだと思います。一年間、全校が知恵を出し合って「楽しい宝島」を目指しましょう。



提案をする国田会長



挙手する4年双葉さん



意見を発表する3年里桜さん



提案する喜舎場副会長